

並行在来線の収支改善と運賃水準について

OR1年度試算 別添【参考1】

10年間累計収支	収支均衡運賃水準 (JR運賃水準比)
▲87億円程度	1.46倍程度

▲16億円
収支悪化

コロナの影響等による運賃収入の減

→自家用車通勤への切り替えや出張の減などを考慮し、利用者の▲5%減を見込む

+27億円
収支改善

①IRいしかわ鉄道による業務体制の見直し

→輸送の安全やサービス水準に配慮しながら要員配置の見直しなどにより経費を縮減

+34億円
収支改善

②JR西日本からの資産譲渡に伴う収入確保

→金沢駅高架下用地の取得等により、百番街の土地賃料など関連事業収入を確保
(県は資産取得の費用を全額補助)

別添【参考2】

○収支不足見込

▲42億円程度	1.22倍程度
---------	---------

+17億円
収支改善

③県と市町による基金を通じた運賃の抑制

→利用者の負担が過度に増加しないよう、県と市町で運賃抑制のため支援

OR4年度 経営計画(案)

▲25億円程度	1~5年目	6年目~
	平均1.09倍	平均1.14倍

⇒ 県及び市町、JRの支援と協力、IR自身の経営努力により、延伸後の運賃水準を金沢以東と同程度に抑制